

地域と連携した 国有林の活用 (96)

矢島営林署 プロジェクトチーム

はじめに

日本海に裾野を広げる鳥海山は、標高 2,236m の秋田、山形両県にまたがる東北随一の秀峰です。

この鳥海山の北東山麓部を管轄する当署管内は、ブナ林が多く、ブナを主とする天然林施業は我が署の経営の主題となっております。その「ブナ」は、今では貴重な緑資源と、マスコミを始めとして世論を賑やかにしておりますが、ブナと言う字は木偏に無と書いて「ブナ」と読ませた古き時代から、つまりブナが木として認めてもらえなかった昭和の初期から先輩諸兄が営々として、ブナの更新に取り組んだ貴重な試験地が数多くあります。

昭和9年から続いているブナ林の天然下種更新別、更新方法別試験地及び伐採跡地に再生したブナの二次林などがあり、ブナ林の施業試験地が一団地にまとまっていて、比較的分かり易く観察することができます。なお、この一帯は「鳥海国定公園」、「鳥海自然休養林」に指定され、家族連れのピクニック等多様なレクリエーションに大きく活用されている箇所（由利郡矢島町木境鳥海国有林）で、由利高原鉄道・鳥海山麓線の終着「矢島駅」で下車、鳥海山の登山口はらい川に通じる県道、町道及び林道沿いに位置しております。

1. ブナ林施業公園設定の経緯

最近、地球的規模で環境問題等、自然保護や緑に対する関心が高まっております。とりわけ我国におけるブナ林の保護については、全国的な広がりをもって運動が展開されており、マスコミ等でもしばしば取り上げられ一般の人々の関心が高まりつつあります。

一方、我々の職場は最近、国民の森林に対する多様な要請等を踏まえ、自然保護にも配慮しながら天然林施業を推進していく事としておりますが、「施業」という言葉そのものが一般の人々になじみが薄いことや、伐採した木材の利用については私達の生活の至るところに姿を変え、形を変えて利用されているにもかかわらず、一般にはほとんど知られていない事などから、ともすると単なる赤字対策で無秩序

に伐採が行われているとの批判を受けることが多い現状です。

これらのことから天然林施業を推進するためには、施業の必要性、施業方法及び伐採された木材の利用等についてもPRする必要があります。これら天然林施業について、長期にわたって試験地をもって研究とデータを収集している我が署では、これら試験地の再



編・整備を図りながら、今後の天然林施業の「施業指標林」にしたいと考え、署のプロジェクトチームを設定し営林局の計画課、造林課に指導をお願いしながら試験地の活用を検討していたところでした。

一方、これまでの天皇誕生日であった4月29日が「緑の日」に制定されるに及んで営林局では、緑の日制定記念行事の一環として「ブナキャンペーン構想」が大きく推進されることになり、矢島署のプロジェクトチームが試験地の活用を検討していたこととあいまって、「ブナ林施業公園」構想が大きく動き出したのであります。

2. 具体的取り組み

営林局では「天然林施業の推進とPR」ということから、ブナキャンペーンを実施する計画で、矢島署のそれぞれの試験地を「ブナ林施業公園」として開園したいという指示があり、当署のプロジェクトチームは、早速、各試験地の現地検討を行ったところ、

- (1) 「ブナ保護林」では、伐採方法によるブナ稚樹の発生状況が観察できる。
- (2) 「ブナ試験地」では、択伐の方法別による稚樹の生育や、上木の生育状況が観察できる
- (3) 「ブナ二次林」では炭焼きのため伐採され、そのときに形質不良で残ったものが母樹となり、種子が落下して再びブナ林となった林齢60年生の二次林が観察できる。
- (4) 「ブナ上方天然下種試験地」では、均等に配置した母樹の種子から発生する稚樹の生育状況が観察できる。

など、ブナ林施業公園の趣旨に合いそうな試験地が候補に上がりました。

整備したい試験地はこの他にも多くあるが、順を追って整備する事とする。

「ブナ林施業公園」として一般の人々に解放するとなれば、天然林施業という技術的なことばかりでは堅苦しいだろうから、少しは「遊び心」も取り入れたい。また、だれでも気軽に観察、散策できるところと言うことも念頭に入れたい。したがって道路沿いが良い。展望所も入れたい。近くには「鳥海ムラスギ」があって、矢島町の木に指定されている。「県の天然記念物」にも指定されていることから、この箇所もコースに組み入れたい。

プロジェクトチームは、これらをもとに数回となく検討を重ねました。

鳥海国定公園については町としても、観光行政の拠点としてしているところであり、町の意向、協力体制をお願いするべく、この企画を町に話したところ、鳥海地域の観光活用と合わせて森林の利用、活用の関心が大きく、町からは絶大な賛助を得ることができました。

以上のことからブナ林施業公園の、開園の際予定している観察会は矢島町と共済で実施することになったのであります。

ブナ二次林

3. 「ブナツアー」実施後の反響

我国は古来豊かな森林に恵まれ私達の生活も森林からの産物である木材と大変深いかかわりをもって営まれてきました。

しかし、水や空気の恩恵に普段はあまり関心を持たれていなかったと同じように、森林に対する関心も薄かったのではないのでしょうか。

近年、森林の保護、開発問題が地球規模で話題となっている時「緑の日」が制定されるなど、一般の人々にも森林に対する関心が高まってきました。

ブナ林施業公園のオープンを記念して、10月15日「ブナツアー」が紅葉の真っ只中で開催され、日本大学の片岡教授の説明により天然林と言えども、ある一定の時期には上木は下木に空間を明け渡さなければ、次代のブナが育たないことなどを分かりやすく説明され、参加者は森林施業に対して強い関心を持ちつつブナ林での一日を楽しんだことは、これまでになく森林に対する愛着と国有林に対する理解にも



通ずるものと、反響の大きさに驚いております。

「鳥海ブナ林施業公園」は国有林野の地道な森林づくりが、国民一般に理解されていく糸口となれば幸いこの上もなく、地方自治体と共催したことによって町からは国有林野事業に大きな協力が得られたことは、大変有意義なことだったと思っております。また当署の職員にとってみれば、毎日何気なく見ていたあのブナ林が、かくも大きく反響を呼んで、しかも一般の人々にことのほか喜んで戴けたことは、営林署全職員驚き、ビックリしたと共に大変な喜びとしたところであり、職場の活性化に結び付いたことは何よりも大きな収穫でありました。

おわりに

「鳥海ブナ林施業公園」については、今後とも営林局の指導を得ながら整備拡充を図っていきたいと考えております。

町の方からもブナツアーの継続実施の要請を受けております。

当署にはまだまだ試験地が数多くあり、これらを活用して家族連れで気軽に散策できる「散策コース」、森林教室などを対象とした「観察コース」、規模的にも大きく技術的にも活用できる「天然林施業指標コース」等の設定など、これからも夢膨らむコースの整備など検討することにしております。

最後に、今回のブナツアー参加者から数多くの礼状が寄せられておりますが、その中の一文、

「ブナ林についてはマスコミを通して一般の人々の関心が高まっております。

その一方で施業についての誤解も多々あるように思います。

これからは国有林も、ブナ林に対する施業の必要性について正しい知識を普及させていくことがますます重要になることでしょう。その意味でも、鳥海ブナ林施業公園は非常に意義大きいものです。その管理に当たる営林局署の方々は大変だと思いますが、是非一層の充実を図って戴きたいと大いに期待いたしております。」

と言う力強いご意見は、これから我々の進むべき道を如実に示しているものと思います。この道しるべに向かって更に「鳥海ブナ林施業公園」の充実を図り、地域と連携した国有林の活用を推し進めるべく、努力を続けてまいりたいと考えております。